

【研究概要】

ニコチン依存症では前頭葉の中心として機能的な連結の異常が指摘されている。脳波検査は、被爆などの侵襲性がなく安価であり、直接的に脳神経の活動を測定できるといった利点があり、本研究では、ニコチン依存症において、形態学的な異常ではなく脳の機能的連結に注目し、脳内の機能的連結の異常や禁煙外来において依存症の治療に伴い脳活動の改善の変化をとらえることでさらに治療効果を明らかにする。